

第2章 本宮市における公共交通の基本方針

第2章 本宮市における公共交通の基本方針

2-1 本宮市の移動に関する問題点

- 以下に本宮市が抱える移動に関する問題点を示す。
○なお、詳細な現況分析は第4章【参考】本宮市の公共交通の現状（詳細版）を参照。

表 本宮市の移動に関する問題点

カテゴリー	問題点
移動実態	市民の日常的な移動手段として自家用車が定着しており、免許を持たない市民も家族等の送迎や徒歩・自転車での移動が多く、公共交通はほとんど利用されていない
	市民の約8割が今後も自家用車利用を継続する意思を示す一方で、65歳以上の市民の中には5年以内に免許返納を予定したいと考えている方がいる
	市民の買物の外出先は主に市内となっており、通院・通勤・通学においては市外（郡山市など）への移動も多い
	市民の買物・通院目的で外出する曜日は特に決まっていないが、買物は土日の利用も確認でき、通院は月～土まで均一に外出が存在する
要望	公共交通利用者の主な不満は『運行時間が合わない』や『行きたい目的地に行かない』、『土日でも利用したい』などの意見が多い
	利用したいが公共交通を利用できない主な理由は『目的地に行かない』や『自宅付近を運行していない』などの運行に関することや、『いつ運行しているかわからない』などの利用方法・情報発信に関することが多い
公共交通の実態	■市街地巡回バス 移動ニーズの高い施設を経由していない路線や、経由していても、ほとんど利用がない路線が存在
	■通勤・通学バス 朝の通学利用者が多い本宮高校前～本宮駅間の下校のための便が運行していない
	■市営バス 買物ニーズの高い『ヨークベニマル本宮インター店』付近や市外への移動手段となる『五百川駅』へ運行していない
	■広域生活バス 市内の運行距離が長い一方で、本宮市民の広域の利用は少なく、市外からの僅かな利用のみとなっている
	■もとみやイクタンタクシー 予約システムの老朽化や市民ニーズを満たせていない（医療施設や公共施設への運行のみのため、商業施設への移動に利用できない）
	■共通 毎日一定数、利用されているバス停が存在する一方で、利用者が1.0人/日を下回る区間が散見
	■共通 市内・市外の移動に関わらず、路線間の乗り継ぎにおいて乗り継ぎ時間が長すぎる・短すぎる路線が散見
■共通 乗車する際は事前に利用券を購入しておく必要があり、利用者の不便・不安を生み出す可能性がある	

2-2 本宮市の移動に関する課題点

○以下に問題点の解消に向けて、本宮市が公共交通において解決すべき課題を示す。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">『市内』の移動利便性に関する課題</p>	<p>■商業・医療施設への運行経路・時間など、市民ニーズに合わせた見直しが必要</p> <p>○地域公共交通は主に市内各所から中心市街地の主要な商業施設や医療施設を經由しており、中心部での移動ニーズが一定程度存在している一方、乗り継ぎが必要であったり、運行経路や運行時間、滞在時間がニーズに合っていないなど、利用者が使いにくい状況が散見される。</p> <p>○中心市街地を運行する市街地巡回バスには一定の利用ニーズはあるものの、運行コースに利用者数の偏りがある状況となっている。</p> <p>○また、郊外の商業施設にも多くの利用ニーズが存するが、公共交通が運行していないなど、市民ニーズに合致していない。</p> <p>○以上のことから、市民ニーズが高い商業・医療施設への運行経路・時間・曜日・頻度など、市民ニーズに合わせた見直しが必要。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">『市外』への移動利便性に関する課題</p>	<p>■市外への移動ニーズに対応するため、市外へ向けての移動手手段の維持・確保が必要</p> <p>○買物などの移動について、市民の半数以上が市内で済ませている一方、通院・通勤・通学に関する移動ニーズは郡山市を中心とする市外に多く存在している。</p> <p>○現状、ニーズが高い郡山市などへ接続する公共交通は鉄道のみであり、市内で接続する地域公共交通については、乗り継ぎ時間が長すぎるなど、決して利便性は高くない。</p> <p>○そのため、市民の移動ニーズを満たすため、地域公共交通と鉄道の接続性の見直しや乗り継ぎ拠点の整備を行うなど、市外への移動手手段の維持・確保が必要。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">事業性に関する課題</p>	<p>■適切な公共交通サービスの役割分担・予約システムの見直し検討が必要</p> <p>○本宮市の地域公共交通には、市街地巡回バスなどの定時定路線運行と、もとみやイクタンタクシーのデマンドタクシーが存在する。</p> <p>○もとみやイクタンタクシーは約30分間隔のドアツードアで運行しており利便性が高く、多くの市民に利用されている反面、短時間かつ広範囲の運行が求められており、運行事業者の負担は大きい。</p> <p>○現状、高齢者や若年者等の交通弱者が多く居住する住宅団地など、多くの移動ニーズが生まれる可能性がある地域が存在することから、デマンド交通の更なる利便性向上とともに、新たな移動サービスの確保等、適切な公共交通サービスの役割分担が望ましい。</p> <p>○なお、現状のデマンド予約システムのリース期間が満了しており、将来的な運行形態に対応可能な新たな予約システムへの見直しも検討が必要。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">効率性に関する課題</p>	<p>■持続可能な公共交通を維持するため、利用状況を踏まえた適切な運行見直しが必要</p> <p>○予約時のみ運行する、もとみやイクタンタクシーを除いた地域公共交通は、基本的に定時定路線で毎日決められた時間に決められた経路を運行している。</p> <p>○しかし、利用者数が増加傾向にあるバス停が存在する一方で、利用者数が1.0人/日を下回るなど、利用が全くないバス停を経由する便も存在する。</p> <p>○今後は持続可能な公共交通を確保・維持するため、実際の利用状況に見合った効率的な運行内容に見直すことが必要。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ソフト面の課題</p>	<p>■新規利用者を確保するため、利用者が不安になる要素の解消が必要</p> <p>○利用者の利便性の向上のため、デマンド交通や、フリー乗降、利用券を導入しているが、デマンド交通における利用登録方法や、フリー乗降における乗り方・運行経路等に関する理解、利用券の事前購入など、公共交通を利用する際には慣れが必要な部分もあり、初めての利用者にとってハードルが高いものとなっている。</p> <p>○アンケートにおいても『いつ、どこを運行しているのかわからない』など、市民から運行内容・利用方法の周知不足についての指摘も存在するため、新規利用者の不安を取り除くことが必要。</p>

2-3 公共交通のあるべき姿（基本方針）

2-3-1 本宮市が目指す将来像

- 本計画は計画の目的にも示したとおり「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにする「マスタープラン（ビジョン+事業体系を記載するもの）」としての役割を果たすことが求められている。
- 目指す将来像については、長期的な視点に立ち、目指す理想のまちである将来像や、まちづくりの方向を示す基本目標、その実現に必要な施策の大綱を定めた「本宮市第2次総合計画」に基づくこととする。
- このため、本計画において目指す将来像についても「本宮市第2次総合計画」で掲げられる『笑顔』あふれる『人』と『地域』が輝くまち **もとみや**の実現を目指すこととする。



図 本宮市の将来像（再掲）

2-3-2 基本的な方針と目標

- これまで整理した問題点・課題及び上位関連計画等での地域旅客運送サービスの位置づけを踏まえながら、地域旅客運送サービスのあるべき姿を検討し、基本方針と目標を次ページに整理する。

他分野でのまちづくりの取組

連携

福祉

子育て

教育

観光

環境

公共交通分野での取組

方針
基本

子どもから高齢者まで、みんなが安全・安心・快適に出かけられる
地域公共交通へのチャレンジ！！

基本目標①：日常生活を安心・快適に送れる地域公共交通ネットワークの実現

○市内のどこに居住していても、買物や通院・通勤・通学などの日常生活が安心・快適に送れるとともに、本宮駅や五百川駅周辺等の市内拠点の元気発信を支える地域公共交通ネットワークを実現する。

施策展開の方向性①

○市民ニーズに合わせた地域公共交通の運行内容に関する見直しを行うとともに、新たな運行システムの構築を図る

基本目標②：市外の移動ニーズに対応する広域交通ネットワークの実現

○市内地域公共交通ネットワークだけでなく、移動ニーズが高い通院や通勤、通学などの市外への移動の足を確保するとともに、交流人口や移住定住者の増加につながる広域交通ネットワークを実現する。

施策展開の方向性②

○関係市町村との連携を図りながら、市外への移動ニーズに対応する新たな広域交通サービスの構築や見直し、市内地域交通ネットワークと広域交通ネットワークとの接続性を向上する

基本目標③：みんなが「気軽に利用」できる地域公共交通システムの実現

○市内外の利用者が公共交通を「気軽に利用」できるシステムを構築するとともに、公共交通利用者の増加に向けて、主に自家用車を利用する市民をはじめ、全ての市民に「わかりやすい」、「利用時に不安を感じさせない」取組を推進し、身近に感じる地域公共交通を実現する。

施策展開の方向性③

○誰もが理解できる利用方法や利用環境、情報発信の構築を行いながら、地域公共交通の「利用しやすさ」や「わかりやすさ」を向上する

基本目標④：様々な環境の変化に対応可能な地域公共交通システムの実現

○「本宮市 2050 ゼロカーボンシティ」の実現に向けた環境にやさしい地域公共交通の構築と、人口減少や少子高齢化、新しい生活様式への対応など、移動サービスを取り巻く環境の変化に対応するため、「新しい技術や考え方」を取り入れた持続可能な地域公共交通を実現する。

施策展開の方向性④

○公共交通の分野からもゼロカーボンシティに貢献するための環境にやさしい施策の検討や、公共交通以外の移動サービスも「連携・活用」しながら、「AI・IoT・ICT」などの新しい技術の採用を検討する

2-4 公共交通ネットワークの将来イメージ

○本計画に定める基本目標を達成するため、下図の将来ネットワークイメージの実現に向けた施策・事業に取り組む。

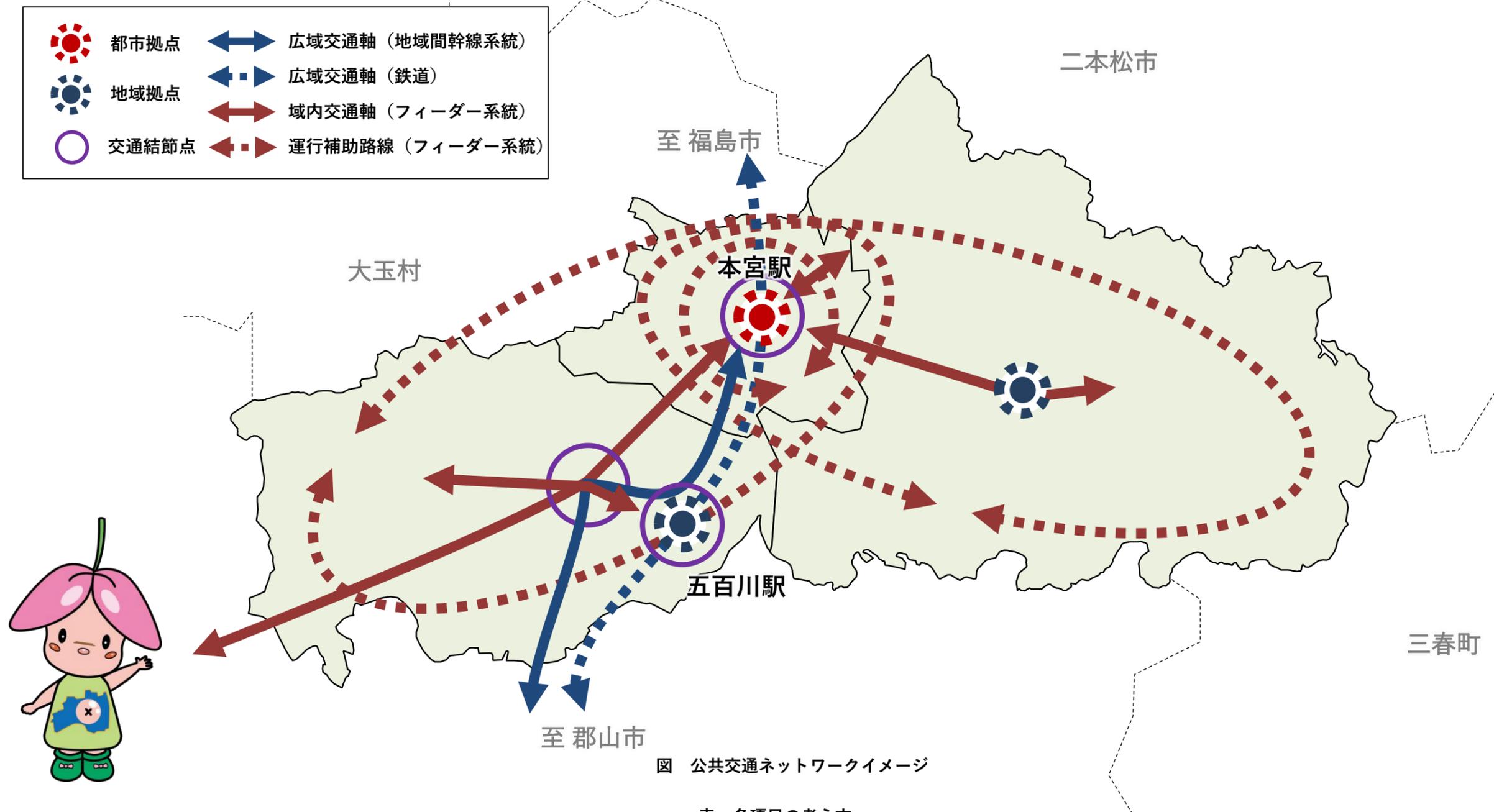


図 公共交通ネットワークイメージ

表 各項目の考え方

区分	項目	内容
拠点	都市拠点	市役所をはじめとする公共施設や商業・サービス機能が集積し、本宮市の中心として都市機能が集積するエリア
	地域拠点	本宮市東部地域や南部地域の市民生活を支える中心地区として、今後も公共施設などの機能集積が期待されるエリア
	交通結節点	本宮市の公共交通の結節点として、中心・地域拠点間の乗り継ぎを支える施設に位置づける
路線	広域交通軸	市内にとどまらない市民の移動ニーズに対応するために市域を跨ぐ移動を担う鉄道・バス路線に位置づける
	域内交通軸	市民の日常的な生活の移動手段を担うとともに、広域交通軸に接続し、市民の広域的な移動を下支えする路線に位置づける
	運行補助路線	域内交通軸で対応しきれない市民の生活移動と広域移動を補完する路線に位置づける

* 『都市拠点』と『地域拠点』は『本宮市都市計画マスタープラン』の将来都市構造図による位置付け